

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representation of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY

As rescanning documents *will not* correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-194667

(43)Date of publication of application : 21.07.1999

(51)Int.Cl. G03G 21/00
B41J 29/00
B41J 29/42
G06F 3/00

(21)Application number : 09-360932

(71)Applicant : RICOH CO LTD

(22)Date of filing : 26.12.1997

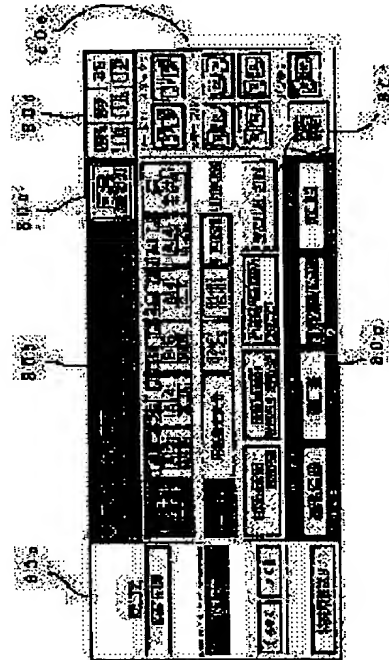
(72)Inventor : MORIKAWA HIROSHI

(54) OPERATION UNIT FOR IMAGE FORMING DEVICE EXCELLENT IN VISIBILITY

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To make the contents of operation easy-to-understand, to make total set contents easy-to-confirm and to improve visibility by classifying, dividing and displaying the items of the actions of various functions on a screen.

SOLUTION: As for the basic display of a touch panel screen; a 1st area 80a displays the contents according to which the kind of an original, copying density and special original feeding can be selected. A 2nd area 80b displays the state of the operation and a message such as 'ready for copying' (message area). A 3rd area 80c is a spot where the remaining capacity of a memory should be displayed by % and displays a coupled copying key when a coupled unit is set. A 4th area 80d displays the number of read originals, the set number of sheets (number of copies) and the number of copied sheets (number of copies) in the memory. A 5th area 80e displays the contents according to which sorting, stacking, stapling and punching can be selected. A 6th area 80f displays the contents of registered functions. Then, the function frequently used is registered.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

特開平11-194667

(4) 公開日 平成11年(1999)7月11日

(11) Int. Cl. ⁸	識別記号	F I
G 0 3 G 11/00	3 7 6	G 0 3 G 11/00 3 7 6 F
B 4 1 J 11/00		B 4 1 J 11/41 G 0 6 F 3/00 6 2 0 J
G 0 6 F 3/00	6 2 0	B 4 1 J 11/00 T

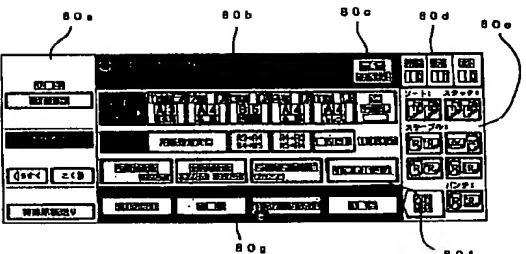
審査請求 未請求 請求項の数 5

OL

(全10頁)

(11) 出願番号	特願平-100017	(11) 出願人	00000177 株式会社リコー
(11) 出願日	平成11年(1999)11月11日	(11) 発明者	森川 博 東京都大田区中馬込1丁目1番1号 株式会社リコー内
		(11) 代理人	弁理士 伊藤 久久 (外1名)

- (14) 【発明の名称】 視覚性に優れた画像形成装置用操作ユニット
- (17) 【要約】
【課題】 簡易的な機能設定の調整を行うつつも、他の設定条件との関連において操作内容が理解しやすく、操作性の優れた装置が提供しやすくなった視覚性に優れた画像形成装置用操作ユニットを提供する。
【解決手段】 画像形成に関連した各種機能動作の少なくとも一部を画面切り替えて簡易的に行う画像形成装置用操作ユニットにおいて、上記各種機能動作の項目が上記画面に分類・分割されて表示される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 画像形成に関連した各種機能動作の少なくとも一部を画面切り替えて簡易的に行う画像形成装置用操作ユニットにおいて、上記各種機能動作の項目が上記画面に分類・分割されて表示されることを特徴とする操作ユニット。

【請求項2】 少なくとも画像情報の読み取りのためのエリアと作像に関する条件設定のためのエリアとを画面上に列々に有することを特徴とする請求項1に記載の操作ユニット。

【請求項3】 少なくとも画像情報の読み取りのためのエリアと背景画像の表示状態に関する条件設定のためのエリアとを画面上に列々に有することを特徴とする請求項1に記載の操作ユニット。

【請求項4】 画像形成後の後処理のためのエリアが更に画面上に設けられたことを特徴とする請求項2又は3に記載の操作ユニット。

【請求項5】 各エリアに属する機能動作の詳細が、その画面上に列々に表示されることを特徴とする請求項1～4のいずれか一項に記載の操作ユニット。

【発明の詳細な説明】

【0001】
【発明の属する技術分野】 本発明は、複写機、プリンタ、ファクシミリ等の画像形成装置に適用される操作ユニットに関するもので、特に多機能化した画像形成装置においても視覚性の良好な操作画面をもたすことのできる。

【0002】
【従来の技術】 例えば電子複写機においては、種々の複写条件などを設定するために入力装置が設けられている。そして、当該入力装置は、複写動作を開始させるフリップスタートキー、複写動作を停止させるストップキー、複写枚数を設定するテンキー、複写倍率を設定する倍率設定キーなど、各種のスイッチが設けられて構成されている。

【0003】 最近の複写機においては、マイクログリッドエータの普及とその機能の拡大に伴って、その内部にマイクログリッドエータを備え、各種の制御を行うようにしたものが多数存在するようになっている。これらマイクログリッドエータ制御による複写機においては、複雑な複写プロセスも簡便なプログラムにより簡単に制御されるようになり、またマイクログリッドエータの機能を活用して、オペレータの利便のために、紙切れ、ペーパージャムなど簡単な障害チェック表示や複写枚数の計数表示など多くの機能が付加されるようになってきている。さらに複写機では、画面複写ができるタイプのものや、複写した記録紙を1枚1枚分配するリターナ機能が使用できるタイプのものや、複写作業を行っている間に所定の複写作業を割り込ませ、この新たな複写が終わると直前

の複写作業が連続して実行できる新たな複写モードが設定できるタイプのものなど、色々オペレータの利便、効率向上を図ったものが提案され、採用に供されている。

【0004】
【発明が解決しようとする課題】 そして上記のような多様な機能に対してはそれぞれ操作のためのキーが備えられ、その機能操作に関する表示も操作部の表示画面に示されることになるが、当然のこととして、操縦が複雑なにつれて操作キーも表示すべき項目も相対的に増大する。画像形成装置の操作は一般に装置本体の上面領域に設けられているが、増大した操作キー全て及び表示画面を平面的に装置上面領域に配置することはスペース的に困難であり、また限られた範囲内に収めるべくキーや表示画面を小さくすると、操作性が悪くなり、さらに多数のキーが配列されることで、操作が極めて煩雑であるような印象を与えるおそれもある。最近の画像形成装置では、複写機とファクシミリ、複写機とプリンタ、更には複写機、ファクシミリ、プリンタ等の複数の装置機能を兼ね備えた複合機が提案され、上記のような問題が大きくなってきている。

【0005】 そこでスタートキーやテンキーなど、基本的なキーのみを機能的なキーとし、多様な機能のための設定乃至操作キーについては、液晶を用いたタッチパネルによってキー部分を切り替えて表示するようにした構成のものが実用化されている。枝分かれした機能ステップ毎に表示して、その画面切り替えによって操作表示部をすっきりさせるものであり、いわば簡易的に機能キーを整理収容している。またマイクログリッドエータ画面の採用、画面レイアウトの工夫などが操作の複雑化を緩和するためになされている。

【0006】 しかしながら、操作機能を画面切り替えて順次行うようにした上記タッチパネル式の操作では、一連の設定操作の途中に既に設定済みのものを変更する必要が生じた場合に、該当の機能ステップまで画面を次々と切り替えた上で変更を行わなければならない、かなりの煩わしさがある。

【0007】 そこで本発明は、簡易的な機能設定の調整を行うつつも、他の設定条件との関連において操作内容が理解しやすく、操作性の優れた装置が提供しやすくなった視覚性に優れた画像形成装置用操作ユニットを提供することを課題とする。

【0008】
【課題を解決するための手段】 上記課題は、本発明にしたがって、画像形成に関連した各種機能動作の少なくとも一部を画面切り替えて簡易的に行う画像形成装置用操作ユニットにおいて、上記各種機能動作の項目が上記画面に分類・分割されて表示されるようにする。

【0009】 複写機画面として、少なくとも画像情報の読み取りのためのエリアと作像に関する条件設定のためのエリアとを画面上に列々に有するようになってい

る。

は、好定である。画像情報の読み取りのための機能には、機能は原形情報、読み取り速度等がある。作例に就くは、例えば、は、画像形成装置の用紙のサイズ指定、画像形成時気、温度等がある。またフリント画として、少なくとも画像情報の読み取りのためのエリアと背景画像の描画領域に関する条件設定のためのエリアとを画面上に別々に有すること、好ましい。画像形成後の後処理、例えば、プリントアウト、スキャニングに関するエリアが、更に画面上に設けられていれば、一層好定である。

【0010】各エリアに属する機能動作の詳細が、その属すべきエリアの一部に他の機能動作の表記とともに示れる。例えば、原形情報に関する詳細が、読み取り速度とともに画像情報の読み取りのためのエリアに示されたいように、すなわち指示入力が機能動作の関連において可能で好ましい。

【001】

【発明の実施の形態】本発明の詳細を、図に示された例に基づいて説明する。本発明に係る操作ユニットたる構成要素8を含んだ画像形成装置の全体制御システムの構成を図1に示す。符号1は画像形成装置のプログラム

を執行するマイクロプロセッサ。符号2はマイクロプロセッサのアドレス、データ及びコントロールバスで、符号3、4、5はそれぞれ当該出力バスを通してマイクロプロセッサ1に接続された読み出し専用メモリ(ROM)、読み書き両面メモリ(RAM)及び不揮発メモリ(NVRAM)である。符号6はバス2を通してマイクロプロセッサ1に接続された出力ポートであり、画像形成装置などのキーボード、ソレノイドなどの出力負荷、センサなどの入力信号が接続される。符号7はシリアル通信用インターフェースであり、操作指示部8との信号の授受を執行している。

この画面80左側で初期設定/カンニングキー-88の下には、枚合機としての切り替えキー-91、リフティング機能キー-90、コピーキー-92が並んでいる。なお、この操作表示部を備えた画面92が主である。なお、この操作表示部を備えた画面92が主である。なお、この操作表示部を備えた画面92が主である。

形成装置の機械的構成や動作は図示のものであるので、画像形成装置の全体的な図示及び説明は省略する。また、当該操作表示部は、枚合機の操作部として示されているが、複写機、フロッピー、フロッピー等の各機能を具現化する該部の操作部であってもよい。

【0010】図3に、コピー操作時におけるタツチナリ画面（図2の符号80）の基本表示（初期画面）の一例を示す。第1領域80aは、原稿選択、コピー一括、特殊表示、第1領域80aの内容を原稿選択、コピー一括、特殊表示の3つを選択できる内容を表示している。第2領域80bは「コピーできます」など、操作の内部やメッセージを表示する（メッセージエリア）。第3領域80cはコピーの残残量を％で表示すべき箇所、図示の場合のように連結ユニットがセツトされていると連結ユニットをセツトする。第4領域80dは、メモリで読み取った原稿枚数、セツトした枚数（部数）、コピーした枚数（部数）を表示する。第5領域80eは、シート、スズ（部数）を表示する。

タツ、フラー、ペンチを選択できる内容を表示する。第6画面801は登録機能の内容を表示する。よく使う機能登録しておくことができる。これはタツ、フラー、ペンチのプログラムキー84を押下して図4の画面を呼び出して行う。繰り返し使いたい内容をプログラム登録として図示の所では10件まで登録することができる。第7画面802は機能項目を表示する。機能項目(タツ)の1つ、例えば「変位」キーを押下すると下から変位の画面が上ってくる。なお「手差し」の表示は、手差しレイトを聞くことで顕われるようになっていて、も

い、このタッチパネル画面80を、複写機等の観点から分類すると、原稿に対する操作に関する第1表示部(第1表示領域80a)と、用紙サイズ・装治等、どのような紙をこなすかという操作に関する第2表示部と、後述の問題に関する第3表示部(第5表示領域80e)に分類される。この分類は単なる便宜上の分類であって、画面80では各表示部にまたがるような表示も可能である。【0004】図5は、限定的な表示を希望するユーザのための、図3の基本表示に対し選択的な第4の局所的な基本表示を表すもので、画面表示のすまじ部が一層広

また、前記設定において自動運転選択機能の優先、特
 低トランスレンドルを手表示にすること、「自動運転許可」
 のみが表示される。基本画面倍率キー・設定画面でも
 設定しない、「等待」キー、「用紙指定設定」キーの一
 み表示される。登録機能キーを設定しないに登録機能キ
 ーが表示されない。図5のものでは連続ユニットがセッ
 トされていないので、連続コピーキーの表示の代わり
 「残数M」が表示されている。このように条件を設定
 的に1つの場合において、読み取り条件、コピー条件、
 後処理機能の存在が分類・分類されて示され、操作の簡

に他の区画部分の既定状態をそれぞれ取戻しなから操作を行うことができる。

【0015】図3の基本表示形式状態に対して、例えばは機體として「A3→A4/B4→B5」の縮小、片面原稿紙と上端への斜め打ちを既定すると、図6のような状態となる。この状態ではじめて「内容確認」、図6のようになっているようにも、スタートキー82（図2）を押下すると、図7のように第1領域80bが「コピー中です」の表示になるとともに、表示の内容が第6領域80f及び第7領域80gにおかれて表示される。この図7に現れた「予知」は、このコピー中に次のコピー内容を既定しておくことができることを示すもので、この「予知」が表示されている間に当該「予知」キーを押下し、予知すべきコピー内容を既定して、自動原稿送り装置（以下「ADF」とい）に原稿をセットしてスタートキーを押下すると、コピー中の作業に引き続いて自動的に予知したコピーが始まる。

【0016】第1領域80aにおいて、原稿種類を設定する場合、図3の表示画面で「原稿種類」キーを押下するところ8の画面に切り替わる。即ち、第1領域80aのみと画8の画面に切り替わる。「文字」キーは文字が主体の原稿に適した設定で読み取られるもので、「写真」キーは写真や絵画・原稿に適した設定で読み取るためのもの、「表紙」キーは表紙の薄い原稿に適した設定で読み取るためのもの、「薄紙」キーは紙の厚さが通常の倍程度のものを、「改行原稿」キーは縦書きの原稿や改行位置の指定などの適度な薄い原稿に適した設定で読み取るためのもの、「透かし」キーは透かしをきれいにコピーすることができ、「複写原稿」キーは繰り返しコピーした原稿に適った設定で読み取るためのもの、文字の太りやゆがみを抑えきれずにコピーすることができる。例えば写真原稿をコピーする場合一「OK」キーを押下すると図3の基本画面に戻る。初期設定で「原稿種類省略表示」と図3に設定しておくことにより、図10に示すように、原稿種類を基本画面に展開することもできる。

【0011】コピー速度の調整には、原稿の速度を読み取り、自動的に適切な速度に調整する「自動速度」の他に、多段階で速度調整する「速度調整」、地味や濃い原稿のときに面陰の速度だけを調整する「組み合わせ速度調整」がある。この「組み合わせ速度調整」を行う場合には、「自動速度」が設定されている図3の基本画面の状態であらう）又は「こく」キーを押して速度調整の状態であらう）又は「こく」キーを押して速度調整の状態を示す。この場合も第1傾斜8.0 mmの限られた画面部分が変わるだけで、読み取り条件が他のコピー条件等と異なったりは規定することができるようになっている。

【0018】ADFに原稿をセットする場合、ADFに一度にセットできる枚数には限界があり、また標準厚み

能を利用すること、これらの補外に役立ることが可能である。「特殊原稿送りキー」を押すると、図12.2の画面に切り替わる。「大量原稿」機能は原稿が所定枚数以上にあって一度にセットしきれない場合に、ADFに自動的に原稿を送ることにセットキーを押さなくても自動的に原稿を送ることを可能にするのである。「サニズ強靱」機能によって各ページの原稿がスムーズに状態でADFを利用できる。

【0010】紙巻トイにセッティングできないサイエスの用紙の他に、はめきなどの厚紙、OHPフィルム、ハクリ紙などをコピーする場合には、手摺（図2の符号81）の「#」キーを押下すると、図13の画面に切り替わる。「#」キーを押下すると、図13の画面に切り替わる。不定形サイエスでOHPフィルムや厚紙を用いる場合には特殊紙設定として「OHP」か「厚紙」のキーを押下する。特殊サイエスの用紙を用いる場合には「不定形サイエス」キーを押下すると、縦サイエス、横サイエスの入力を可能にする画面に切り替わる（図14示す）ので、テンキーを用いてそれぞれ縦のサイエスを入力して「#」キーを押下（図15）し、「OY」キーを押下すると、さらに図9の基

本圖面（但し「自動用紙張紙」キーの代りに「不足形」キーが点灯している）に切り替わることになる。【0020】変位機能として各連の拡大/縮小を行うことが可能である。例えば指定した用紙サイズに合わせて自動的に拡大/縮小（図3）を行うことが、そのためには第6領域804（図3）に示される「用紙指定変位」を押した上で用紙を給紙トレイから選択する。また「すこし小さめ」キーを押下すると例えば3%縮小+センタリング（位置基準移動）にすることができ、また「変位」キーを押下して「用紙指定変位」キーを押下することにより（図4）に示すように「不足形」キーが点灯する。

ある。

【0021】コピー状態には「変換」の他に、「編集」、「表紙/合紙」、「両面/裏表/分組」がある。これらについて以下に説明する。「編集」キーを押下して「編集画面」を表示させたものが図15である。「グラフィックコピー」は1枚の原稿を1枚の用紙の上下又は左右に2つコピーするもので、「リピーター」は1枚の原稿を2つ一斉の用紙サイズと設定された倍率にのびて1枚の用紙に複数面コピーするものである。「とじ代」は用紙の左端又は右端に余白を付けてコピーするもので、「セ」

「リ」キーを押下して寸法調整する。「セ」キーを押下しは本や雑誌をコピーするときに中央にできる影を消去するもので、周囲にできる影を消去するものが「リ」である。これは消去幅を設定することができ、特に「リ」では図16に示すように消去すべき幅を指定、指定同一幅に設定することも自動的に設定することもできる。「セ」キーを押下しは画像をコピー用紙の中央に移動してコピーする機能である。

【0022】「表紙/合紙」は、表紙用の用紙にコピーしたり、草の変わり目に用紙（合紙）を挿入してコピーするもので、原稿の1ページ目を表紙用の用紙にコピーする「おもて表紙」、1ページ目の原稿と最終ページの原稿を表紙用の用紙にコピーする「両表紙」、草の変わり目に用紙（合紙）を挿入してコピーする「草区切り」、原稿のページが変わることにコピーに合紙機能を押下して、この機能を表示させたものである。なお、片面→両面を選択しているときには「草区切り」の中でも特に、指定された原稿を常に1ページ目の原稿と同じおもて面にコピーすることもできる。原稿面とコピー面の設定の組み合わせで、両面コピーや集約コピーや分組コピーをすることができ、両面/裏表/分組/集約/集約/集約を押下すると、図18の画面に切り替わる。両面コピーでは片面原稿から両面コピーにしたり、両面原稿から両面コピーにしたりする。複数枚の原稿を1枚の用紙にまとめてコピーすることができ、図19には片面集約で原稿2ページ毎に集約する例を示し、図20には両面集約で原稿4ページ毎に集約する例を示す。更に図21に示すように、原稿面とコピーの両方方向で「左右ひらき」/「上下ひらき」を選択することもできる。分組コピーには、見開き原稿の左右ページを1枚ずつ用紙の片面にコピーする「見開き→片面」、両面原稿の裏表を1枚ずつ用紙の片面にコピーする「両面→片面」がある。「見開き→片面」コピーの場合には図18の画面において「分組/本」キーを押下して図22の画面に切り替え、「OK」キーを押下することで設定する。「両面→片面」コピーの場合には図18の画面において原稿面の「両面」、コピー面の「片面」、「OK」を押下して設定する。また複数枚の原稿がページ順になる本状態のコピーを得ることもでき、これには、見開き原稿を用紙の両面

(3) 特開平11-194667

にコピーする「左右ページ両面」、見開き原稿と同じ状態になるように用紙の両面にコピーする「表裏ページ両面」、4枚の片面原稿をページ順になるようにコピーする「ミニ本」、複数枚の原稿をページ順（折って置いたとき）になるようにコピーする「週刊誌」がある。図22では初期設定における「ページ両面」に「集約」で「左右ページ両面」が設定されているものであり、「表裏ページ両面」を使用する場合には初期設定を変更する。図示の例に限らずに「左右ページ両面」と「表裏ページ両面」が同時に表示されるようになってい

【0023】次に画像情報を画像形成装置内に蓄積し、また蓄積したフイルムに基づいて印刷を行う蓄積フイルム用画面について説明する。図2の「コピー/リピーター」キーを押下してタッチパネル画面80を切り替え、読み取りフイルム蓄積のための画面を呼び出す（図23）。第1領域80aに現れた「原稿読み取り」キーを押下すると、図24の画面に切り替わる。この画面では、第1領域80aや第6領域80fがコピー時の基本画面と同じになるので、必要に応じて読み取り条件を設定して読み取りを行う。読み取りの際の各種機能利用はコピー時と同じなので、ここでは説明を省略する。蓄積したフイルムを読み取り印刷する場合には、先ず図23の画面を呼び出す。蓄積されたフイルムが存在しているので、第5領域80eの「印刷条件」キーを押下可能な状態として画面呼び出しがなされる。そこで「印刷条件」キーを押下すると、図25の画面に切り替わる。文書を選択しながら印刷条件の設定を行う。印刷条件の設定の際の各種機能の利用もコピー時と同じなので、ここでは説明を省略する。

【0024】
【発明の効果】本発明によれば、画像形成に關連した各種機能動作の項目が切り替え画面に分類・分割されて表示されているので、階層的な機能設定の整理が行いやすく、他の機能動作との関連において操作内容が理解しやすく、操作性の内容の把握が容易であり、操作性に優れることとなる。そして、如何なる画像情報などのような状態で画像形成処理し、どのように得るかを互いの関連のなかで、一連の流れとして把握することが可能となる。

【図面の簡単な説明】
【図1】本発明に係る操作表示部を含んだ画像形成装置のブロック図である。
【図2】本発明に係る操作表示部の概略平面図である。
【図3】コピー操作時におけるタッチパネル画面の初期画面を示す図である。
【図4】プログラム登録やプログラム呼び出しの際のタッチパネル画面の図である。
【図5】図3とは異なる態様の初期画面を示す図である。

(4) 特開平11-194667

【図6】機能設定した状態の一例を示す図である。
【図7】コピー中におけるタッチパネル画面の一例を示す図である。
【図8】原稿種類の詳細をポップアップして示す場合の画面図である。
【図9】原稿種類を「写真」に設定した場合の図である。
【図10】原稿種類の詳細を基本画面に展開して示す場合の画面図である。
【図11】読み込みの組み合わせ確認状態の図を示す図である。
【図12】特殊原稿送りの詳細をポップアップして示す場合の画面図である。
【図13】手押し給紙する場合の設定を行う際の画面図である。
【図14】変換機能の詳細を示すもので、集約コピー機能を設定した後に用紙指定変換の設定表示する場合の画面図である。
【図15】編集機能を設定する場合の画面図である。
【図16】リピーター機能を設定する場合の画面図である。
【図17】表紙/合紙機能を設定する場合の画面図である。
【図18】両面/裏表/分組機能を設定する場合の画面図である。

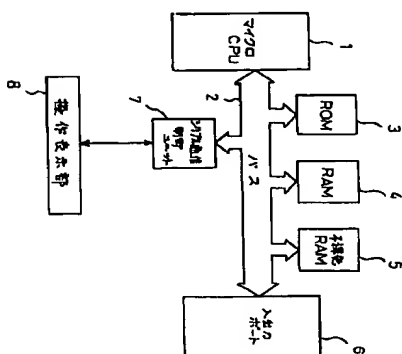
【図19】片面集約で原稿2ページ毎に集約する場合の画面図である。
【図20】両面集約で原稿4ページ毎に集約する場合の画面図である。
【図21】左右向き/上下向き機能を選択する際の画面図である。
【図22】分組/本機能を設定する場合の画面図である。

【図23】蓄積フイルム印刷機能の操作時におけるタッチパネル画面の初期画面を示す図である。
【図24】蓄積すべき原稿を読み取る際の画面図である。

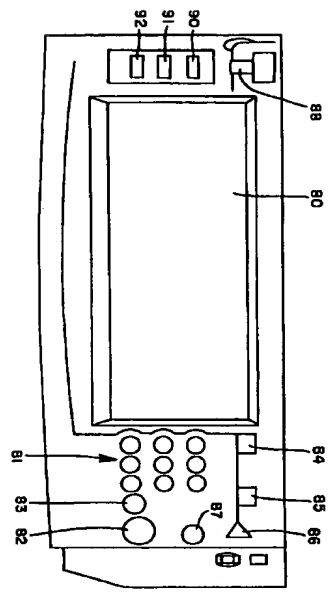
【図25】蓄積したフイルムを選択した後に印刷条件を設定する場合の画面図である。
【符号の説明】
80a 読み取られるべき原稿の選択設定を行うための第1領域
80b 第2領域（メッセージエリア）
80c（メモリ残量を表すための）第3領域
80d 第4領域
80e（後処理機能を表すための）第5領域
80f（登録機能の内容を表すための）第6領域
80g（機能項目を表すための）第7領域

【図18】両面/裏表/分組機能を設定する場合の画面図である。

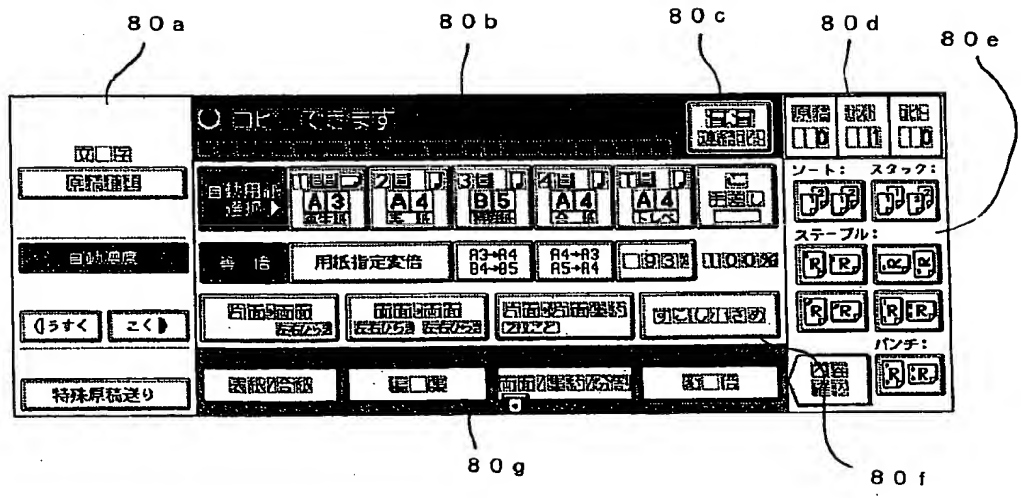
【図1】

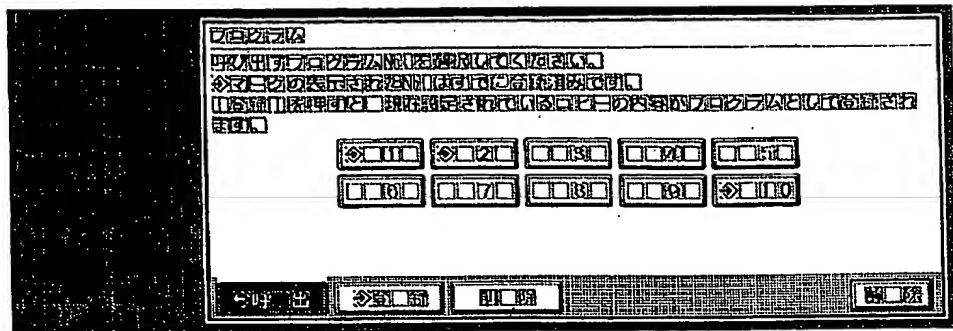


【図2】

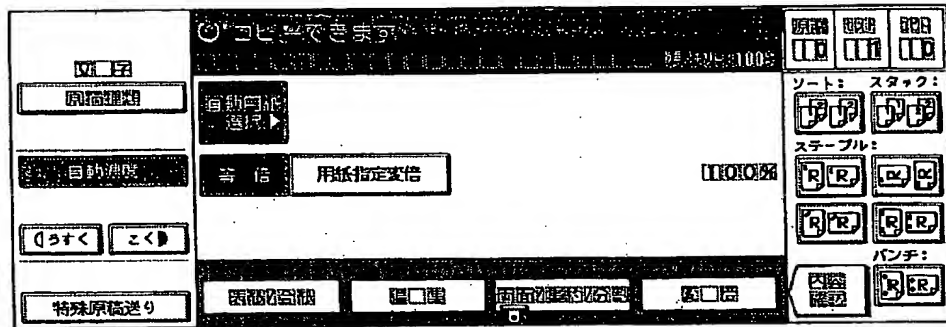


【図3】

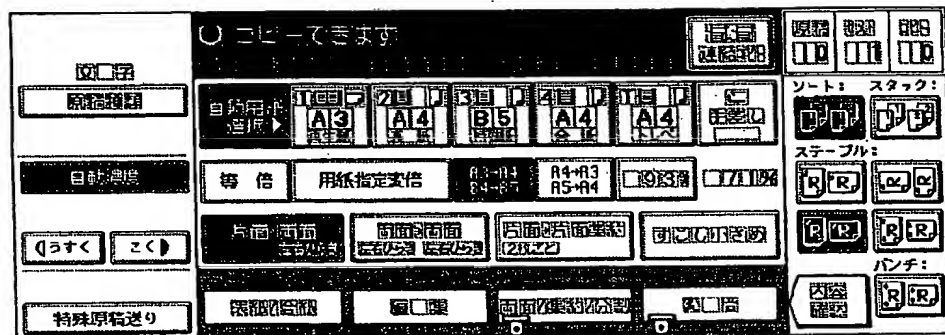




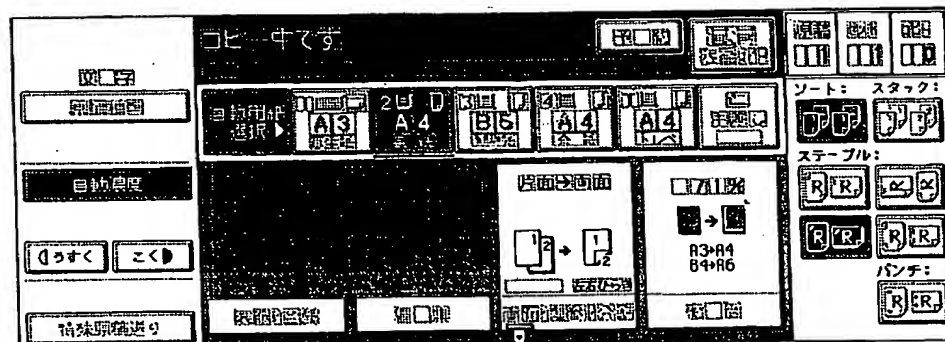
【図4】



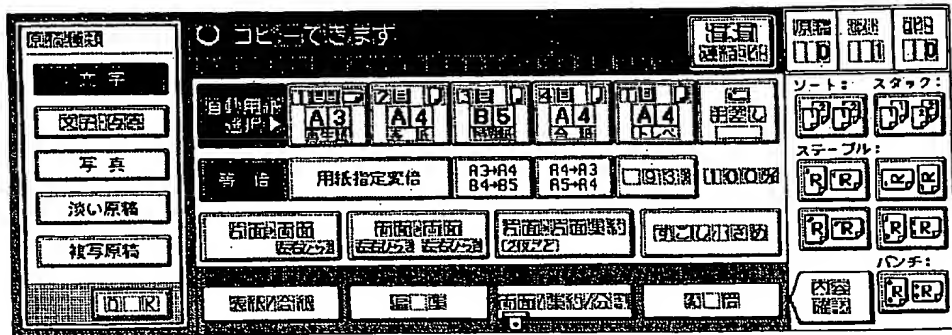
【図5】



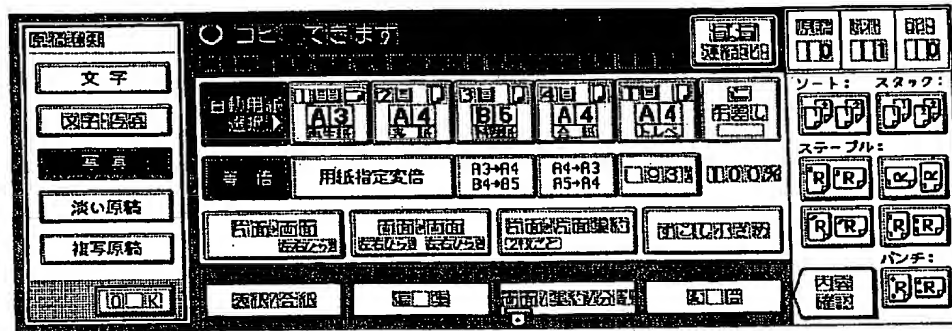
【図6】



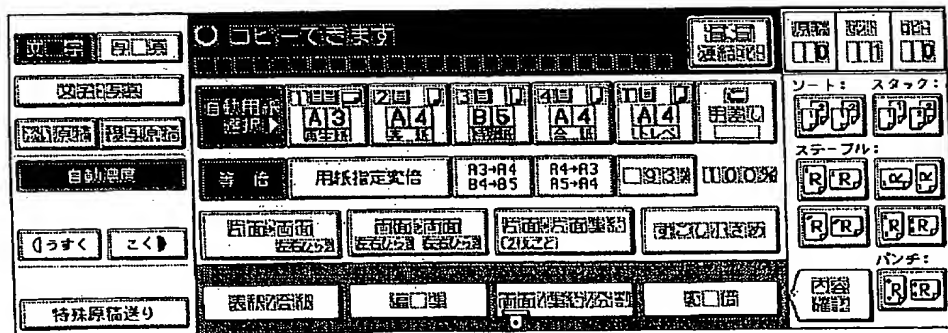
【図7】



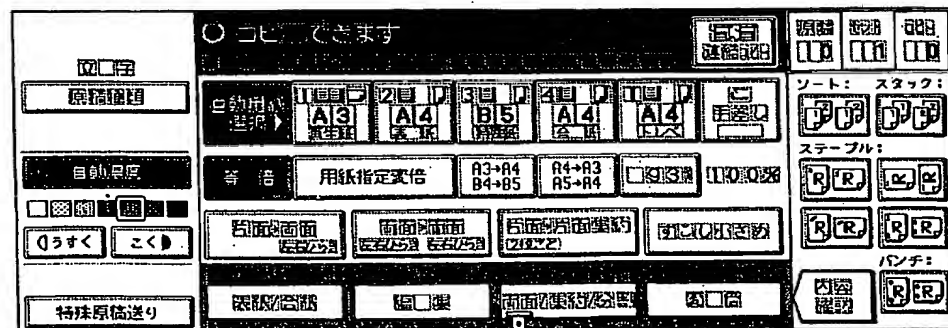
【図8】



【図9】



【図10】



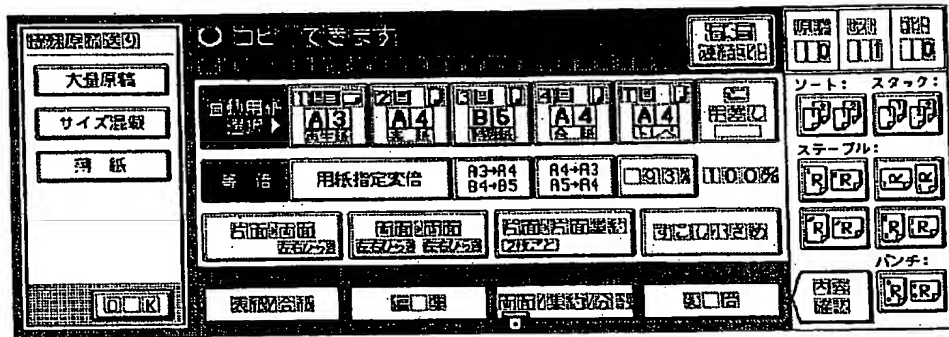
【図11】

(1)

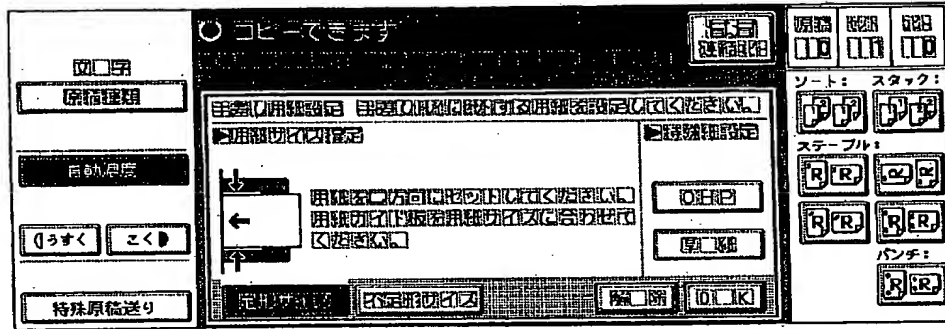
特開平11-194667

(12)

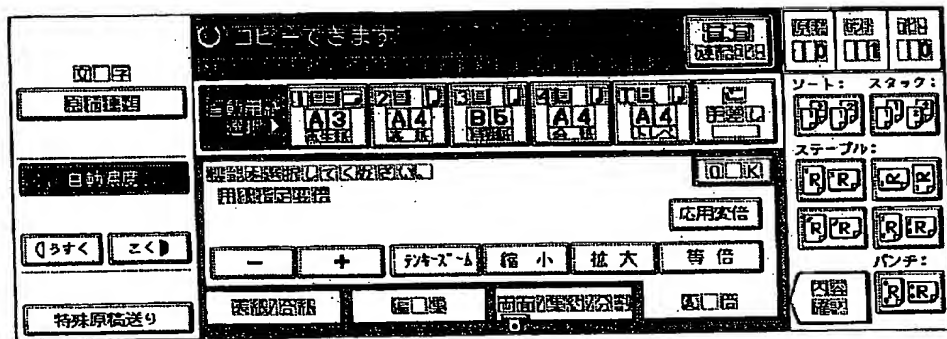
特開平11-194667



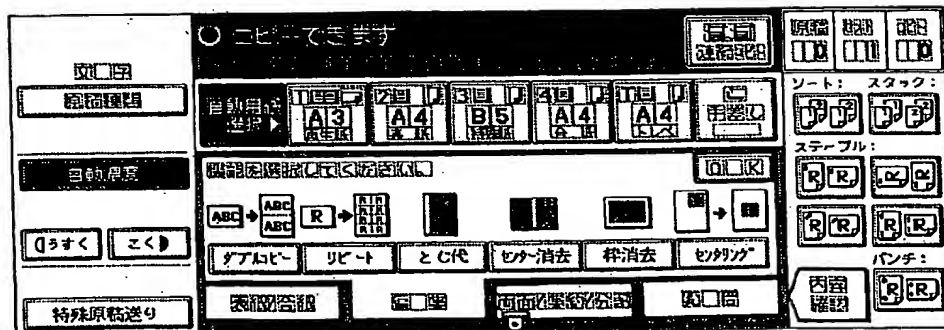
【図12】



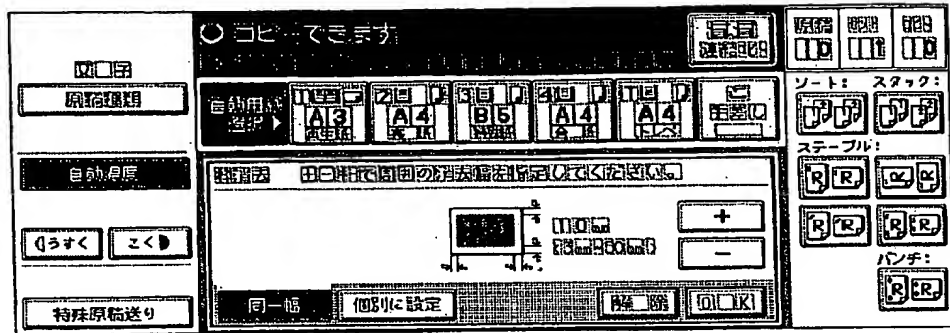
【図13】



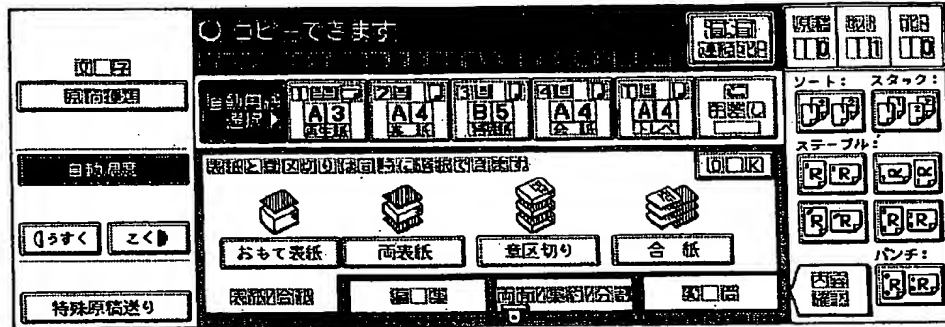
【図14】



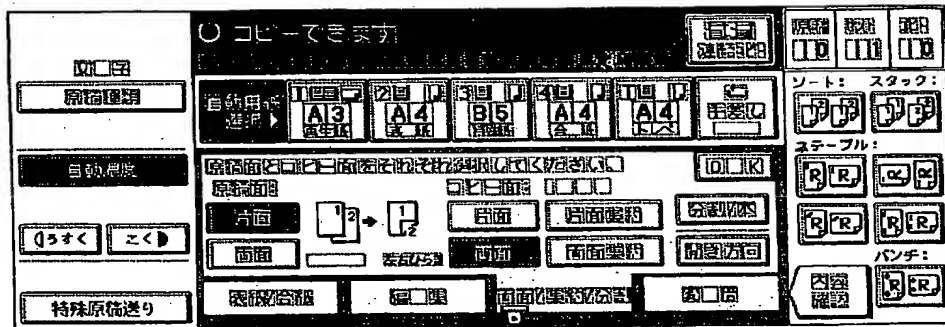
【図15】



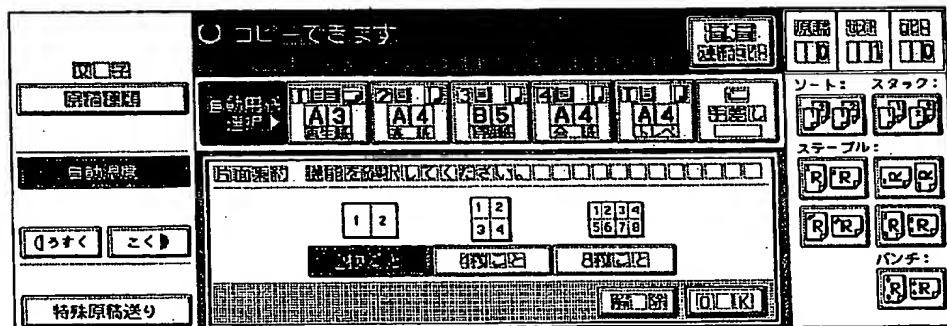
【図16】



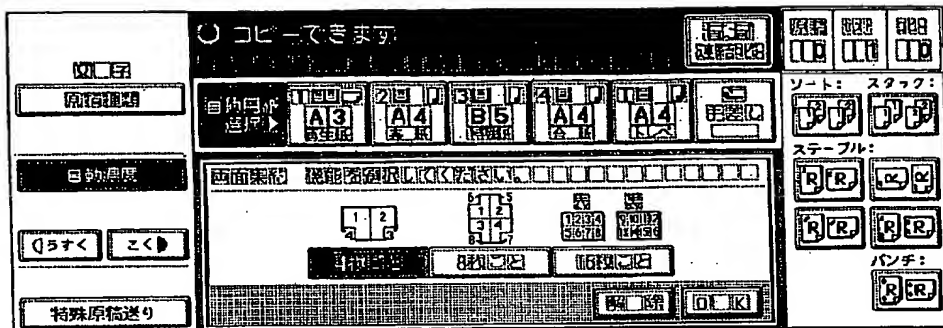
【図17】



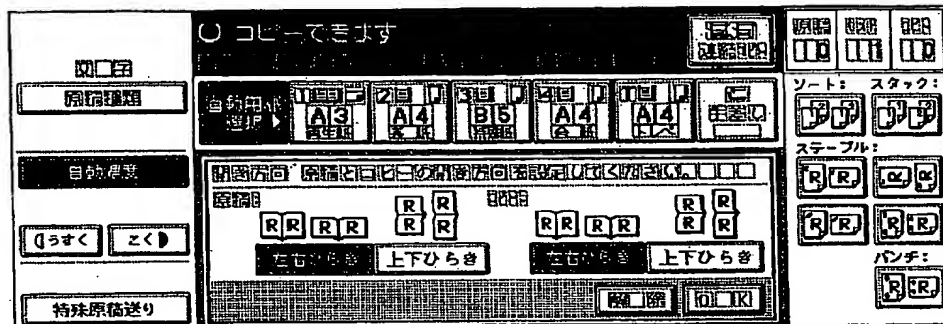
【図18】



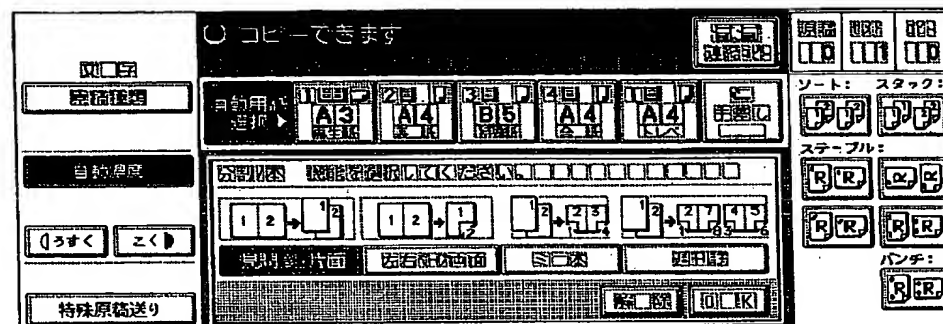
【図19】



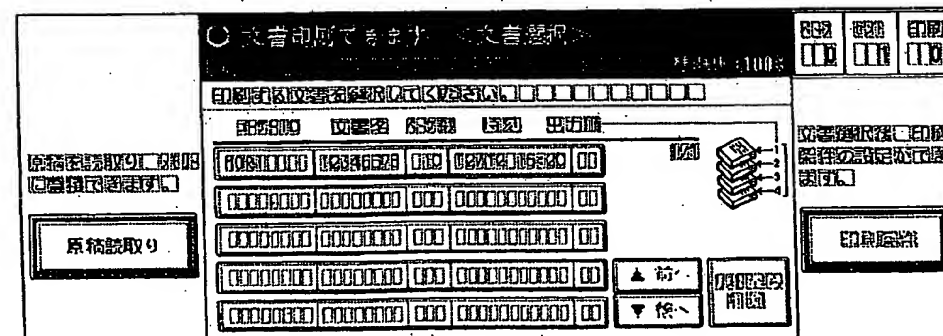
【図20】



【図21】



【図22】



【図23】

